

# 環<sup>わ</sup>の道<sup>みち</sup>



～美しい星への願い～  
北海道洞爺湖サミット1年前 セタイイベント

7月7日(土)、若林環境大臣、高橋北海道知事、さかなクン、歌手の高杉さと美さんや近隣小学校(9校)の児童などが参加して洞爺湖ビジターセンターで開催された、「洞爺湖サミット1年前 セタイイベント」の一コマ。

## CONTENTS

### トピックス

- 洞爺湖ビジターセンター & 火山科学館開館..... 2
- 羅臼ビジターセンター開館..... 3

### 特集

- 美しい北海道を守ろう..... 4・5
- アクティブ・レンジャー..... 6・7

### エッセイ

- 思い出の島..... 8

### レンジャーノート

- 伝えること..... 9
- 二十歳を迎える釧路湿原国立公園..... 9

### 事業紹介

- タンチョウを日本の財産に!..... 10

### イベント情報

- みどりフェスタ & 国立公園フェア..... 11

第7号  
2007.7



北海道地方環境事務所

環境省

## 洞爺湖ビジターセンター&火山科学館開館

平成19年5月14日、洞爺湖町洞爺湖温泉に、洞爺湖ビジターセンター&火山科学館が開館しました。



洞爺湖ビジターセンター(右側)&火山科学館(左側)

### 開館式

洞爺湖ビジターセンター(以下「センター」)玄関前で行われた開館式では、黒田環境省大臣官房審議官及び長崎洞爺湖町長の式辞に続き、浅野北海道地方環境事務所長から施設の概要紹介が行われ、北海道知事、洞爺湖町議会議長の祝辞を賜りました。

その後、センター建設に当たって館内展示の作成などにご助言・ご協力をいただいた方々や関係者へ感謝状の授与が行われました。



テープカット

式典後、関係者によるテープカットが行われ、センター職員による案内のもと、施設がお披露目されました。

### 施設概要

センターは、建築面積1,354㎡、延床面積1,471㎡と、環境省のビジターセンターの中でも日本一の規模を誇り、高さ13mの木造二階建てです。

センターに併設されている火山科学館は、建築面積533㎡、延床面積492㎡、高さ9.3mの木造平屋建てです。

外壁の下部とエントランスは景観との調和を考慮して札幌軟石を使用し、外壁の上部と建物内部は道産のカラマツ材や広葉樹集成材をふんだんに用いています。

地下熱を屋内に取り込んで冷暖房の補助熱源として使用し、屋根の中央部には明かり取りを設け自然採光により、屋内の照明節減と空間の広がり演出。また、太陽光発電装置を設置するなどCO<sub>2</sub>削減対策も施しました。



吹き抜け空間

### センター・火山科学館のみどころ

センターは、中央に吹き抜けの空間を設け開放感にあふれています。床面に洞爺湖の巨大空撮写真、吹き抜け部に洞爺湖の立体模型を配したほか、1977年有珠山噴火の様子を高さ8mのグラフィックタワーで再現しており、洞爺湖の成り立ちや自然の姿を立体的に感じることができます。また、施設内を【洞爺湖の成り立ちゾーン】【洞爺湖の自然ゾーン】【情報提供ゾーン】等にまとめ、それぞれのテーマに沿った展示を行い、数多くの実物標本を用いて解説しています。

さらに、レクチャールームでは洞爺湖地域の自然をハイビジョン映像でご覧になれます。

二階の展望コーナーからは洞爺湖や2000年噴火の火口が見



洞爺湖の空撮写真

られ、図書コーナーや情報コーナーでは自然や地域の情報を調べることができます。

**火山科学館**は、センターと渡り廊下で結ばれ、環境省が建物を、洞爺湖町が内部の展示を整備した施設です。

火山をテーマにしており、【展示室】では、噴火を繰り返す有珠山の驚異や災害の爪痕、防災や予知等の人間生活との関わりなど、有珠山の噴火の歴史を臨場感溢れる演出で展示しています。

【シアター】では220インチの大型スクリーンを3面備えた約130席のマルチビジョンシアターで、2000年噴火の実写映像や音声、震動により有珠山の噴火の迫力・脅威を身近に体感できます。(上映時間:13分)

**北海道洞爺湖サミット**が来年開催されることが決定したこともあり、地球環境保全の情報発信基地としてもその役割が期待されています。



マルチビジョンシアター

map



〒049-5701 北海道洞爺湖町洞爺湖温泉142番地 5  
TEL・FAX:(0142)75-2555 URL <http://www.toyako-vc.jp>  
開館時間 9:00~17:00  
休館日 12月31日~1月1日  
入館無料(火山科学館は利用料が必要)

### その他施設の開館情報

4月25日、支笏洞爺国立公園登別温泉に、(財)自然公園財団の整備による「登別パークサービスセンター」が完成しました。

外観は昭和初期のバス停をイメージしており、道産材をふんだんに用いた木造二階建てで、内部には休息・展示コーナーや案内所などが整備され、登別周辺の遊歩道や季節の見どころを情報提供しています。



登別パークサービスセンター

〒059-0551 北海道登別市登別温泉  
(財)自然公園財団登別支部 TEL:(0143)84-3141

## 羅臼ビジターセンター開館

平成19年5月24日、羅臼町に知床世界自然遺産・知床国立公園羅臼ビジターセンターが開館しました。



羅臼ビジターセンター(背後の山は羅臼岳)

### 開館式

「知床世界自然遺産・知床国立公園羅臼ビジターセンター(以下「センター」)の開館を記念して行われた式典では、環境省自然環境局長(渡邊自然環境計画課長の代読)式辞に始まり、来賓の方々から多くのご祝辞をいただきました。また、渋谷釧路自然環境事務所長から施設概要説明やセンタースタッフの紹介、浅野北海道地方環境事務所長からセンター建設に当たってご尽力いただいた方々及び館内展示の作成にご協力を



テープカット

いただいた方々へ感謝状の授与が行われました。

最後に関係者によるテープカットが行われ、情報提供スペースをはじめとした施設や映像展示がお披露目されました。

### 施設概要

センターの建築面積は831㎡、高さは9.6mで構造は鉄筋コンクリート造り一部木造です。いくつかの建物を接続したようなデザインとすることで、切妻屋根でも屋根の面積を小さく抑え、建築コストの削減や熱効率の向上を図りました。屋根の部材には北海道産の



館内の様子

カラマツ集成材とスチールを使用しています。木で組んだ屋根をスチールで補強した新しい技術のハイブリッド工法の採用により、屋根構造に用いる建設資材量を少なく抑えることができました。また、暖房は温泉熱を利用し、床暖房によるCO<sub>2</sub>の削減対策を行っています。

### 知床国立公園の管理

センターでは知床世界自然遺産・知床国立公園の羅臼側の玄関口として自然、文化、利用等に関する情報提供や普及啓発を行っています。また、センター内の羅臼自然保護官事務所では、知床国立公園の羅臼側の区域を管轄する

ほか知床鳥獣保護区、野付半島・野付湾鳥獣保護区を管轄し、環境省職員とセンタースタッフが協力してこの地域の国立公園や鳥獣の保護管理業務等を行っています。

### センターのみどころ

来館者に情報提供を行う上で重要となるインフォメーションカウンターは国内でも最大規模を誇り、インフォメーション業務の充実を図りました。カウンターの隣にはライブラリーコーナーを設置し、くつろぎながらパソコンや本等で情報収集ができます。

センター館内の壁面には海、山、川の自然や漁業、アイヌ文化等を、羅臼で活動する写真家達の迫力ある美しい写真パネルで解説しているほか、中央には触れる展示物が多数配置されています。ヒグマの毛皮やアザラシの赤ちゃんと同じ重さのぬいぐるみ等があり、手触りや重さなどが体験できます。また、レクチャールームでは、これまであまり映像として納められていなかった知床の海を中心とした美しい自然を紹介する映像を150インチのスクリーンで鑑賞することができます。

ほかにも色々とお見どころがありますのでお気軽にセンターへお越し下さい。



触れる展示



〒086-1822

北海道羅臼町湯ノ沢町6番地27

TEL:(0153)87-2828 FAX:(0153)87-2876

開館時間 9:00~17:00(5月~10月)

10:00~16:00(11月~4月)

休館日 月曜日(入館料無料)

## COOLBIZ 2007

### みんなで防ごう!! 地球温暖化

### ～美しい北海

#### IPCCの報告

国連の「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」は、三つの作業部会の報告書を相次いで公表しました。その中では、この100年間で温暖化は確実に進行し、化石燃料に依存する社会がこのまま続けば、平均気温は今世紀末に約4.0度上昇すると予想しています。しかし、適切な対策を講じれば、温暖化は食い止められる。報告書はそう指摘して、各国に取組を促しています。

\* IPCC第4次報告 [http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4\\_th\\_rep.html](http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4_th_rep.html)

#### 京都議定書と日本の現状

京都議定書の日本の約束である1990年度比温室効果ガス6%削減の第1約束期間が来年度に迫っています。

環境省は、本年5月末に2005年度の温室効果ガス排出量(確定値)を公表しました。

その内容は、13億6000万トで、京都議定書の基準年の総排出量を7.8%上回り、また前年度と比べ0.2%の増加となっており、目標達成に向けた努力・対策等が必要な状況です。

なお、政府は今後京都議定書目標達成計画の見直しを予定しております。

\* 国内排出量 <http://www.env.go.jp/earth/ondanka/ghg/index.html>

#### 北海道の現状

北海道内の温室効果ガスの排出実態は、北海道の調査によると2003年度は2297万トであり、道民一人当たりの排出量は全国平均と比べると寒冷地であること、広さなどの理由からか1.4倍となっています。



#### 各種取組

事業者、市民、行政等でも温暖化防止対策の各種取組が行われています。環境省としても今夏は省エネ製品の買い換え促進、3年目を迎えるクールビズの定着(オフィスから家庭まで)な

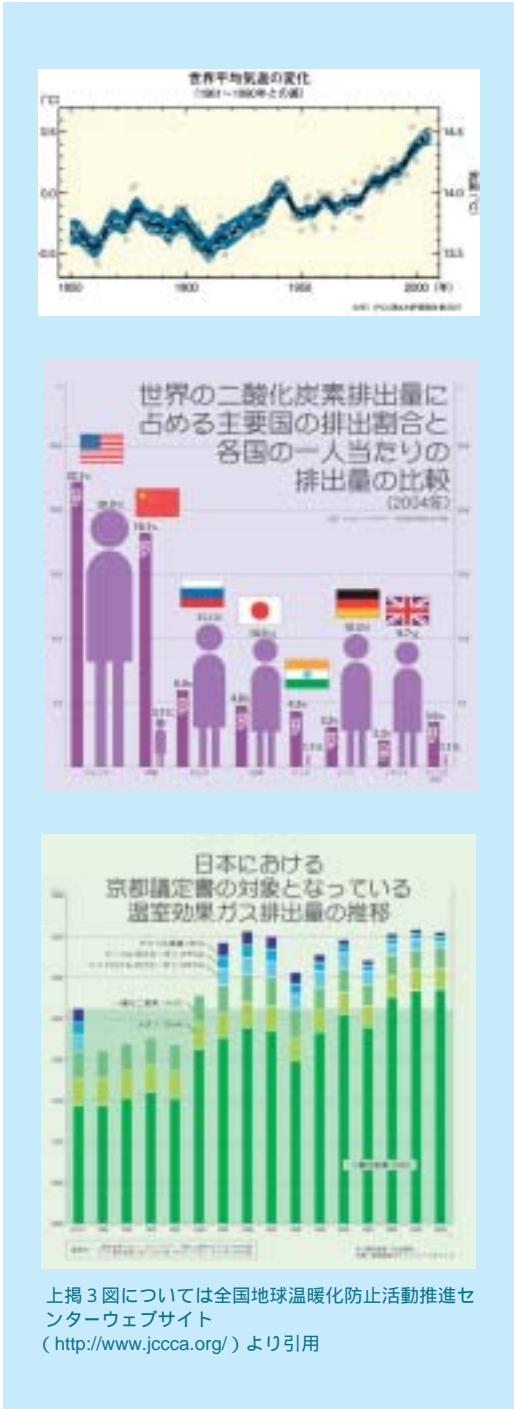
どのPRに努めているところです。

\* クールビズ、うちエコ <http://www.team-6.jp/>

また、当事務所としても各種取組に加え地方公共団体等が策定する実行計画、推進計画策定への支援を行って参ります。

#### 最後に

来年7月の北海道洞爺湖サミットでも主要テーマになるといわれている地球温暖化対策。環境省は2007年版環境白書の中で「人類社会が破局に突き進む時計の針を止めるため、対策の加速が喫緊の課題」と強い危機感を示しております。ライフスタイルを見直す等、今こそ人類はその責任を果たす時ではないでしょうか。



# 集

## 道を守ろう～

### 全国ごみ不法投棄監視ウィーク

安倍内閣が掲げる「美しい国」づくりの施策の一環として、本年度から5/30(水)～6/5(火)の期間が「全国ごみ不法投棄監視ウィーク」として設定されました。ウィーク期間中は、国、自治体などの関係機関が監視パトロールや啓発活動、美化活動などに一斉に取り組みました。当事務所の取組を紹介します。

#### 不法投棄監視パトロール

官用車に「不法投棄を無くそう！」のマグネットを貼り、巡回パトロールを行いました。また、不法投棄ホットラインなどに通報が寄せられた事案の現地調査を行い、新たに廃棄物が持ち込まれたり、廃棄物の不適正な処理が継続されていないか監視をしました。



通報が寄せられた事案は、すでに投棄者が判明し、関係自治体が必要な措置を講じていましたが、通報が寄せられた場合には、引き続き当事務所としても速やかな状況の把握に努めます。



#### エコロジカルフェスティバル2007への参加

6月2日(土) 中島公園で開催された「エコロジカルフェスティバル2007(リサイクル運動市民の会主催)」に参加しました。当日は快晴に恵まれ、朝早くから多くの市民で賑わいました。



会場では、パネルやのぼりを展示し、監視ウィークのPRを行いました。また、不法投棄撲滅を呼びかけるティッシュを配布し、不法投棄の撲滅を呼びかけました。



また、ごみの3Rや地球温暖化に関するアンケートを行い、回答にご協力をいただいた方に「もったいないバッグ」を配布し、レジ袋の削減を呼びかけました。アンケート結果では、買い物の際にレジ袋を「よく断る」と回答した方は約3割にとどまっており、さらにマイバッグの持参を推進することが必要と感じました。



不法投棄対策は早期発見、拡大防止が第一です。美しい北海道を守るため、不法投棄をしない、させない、許さないための環境づくりに取り組んでいきます。

産業廃棄物の不法投棄に関する情報を受け付けています。

環境省不法投棄ホットライン

電子メール：sanpai110@env.go.jp F A X：0120-537-381

ごみなし さんばい

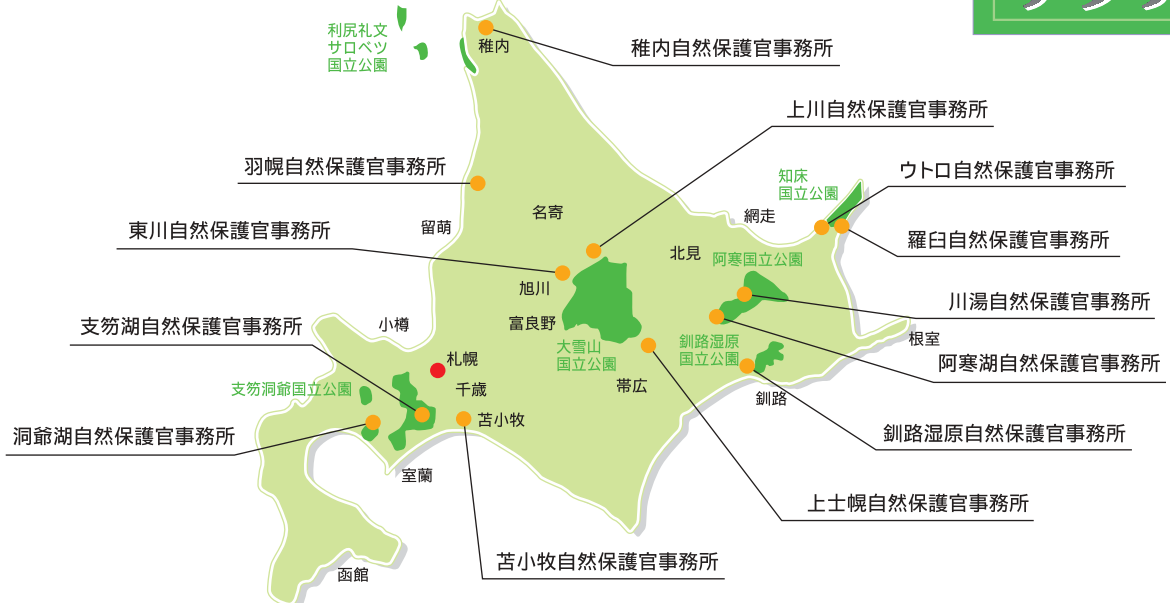
## アクティブ・レンジャー制度

アクティブ・レンジャー（自然保護官補佐）は、自然保護官が行う業務を補佐し、自然保護地域内のパトロール、利用者への指導、自然解説などの現地業務や自然公園指導員等のボランティアとの連絡調整など、国立公園の現地管理体制の充実強化を図るために平成17年6月よりスタートした制度です。

平成19年7月1日現在、道内では18名のアクティブ・レンジャーが各国立公園などに配置されています。

## アクティブ

### 自然保護官事務所



### …アクティブ・レンジャーからひとこと…



#### 稚内自然保護官事務所

佐々木 伸宏（ささき のぶひろ）  
カメラとはおおよそ縁遠かった私ですが、ARになってから撮り始めた写真も、ずいぶんと増えました。最近はビデオ撮影も覚え、ますます道北の自然や風景に魅せられています。



#### 稚内自然保護官事務所

岡田 伸也（おかだ しんや）  
登山など、遊びのフィールドとしての自然が好きですが、生活の場としての自然も大切です。何事も多様な視点から見られるよう、日頃から心のストレッチをしておきたいと思っています。



#### 羽幌自然保護官事務所

中田 洋介（なかだ ようすけ）  
私は旅が好きです。旅先で自然や人にふれ、その土地の食べ物を味わうのが好きです。これからも日本各地に行き、様々なものを体験し、自分の中に吸収できればいいな、と考えています。



#### 上川自然保護官事務所

大久保 智子（おおくぼ ともこ）  
山が好きで、休日も山を歩いています。今までは夢中で歩いていましたが、最近は、動植物を愛でながら、ゆとりを持って歩くように心がけています。



#### 東川自然保護官事務所

山下 なつ絵（やました なつえ）  
長崎の田舎町で育った私の子供時代の遊び場はいつも自然の中で、切り傷、擦り傷、青あざは絶えることなく、いかに上手にかさぶたを剥がせるかが毎日の課題？でした。大人になり、怪我の頻度は減りましたが、今も自然の中が私の遊び場です。



#### 上士幌自然保護官事務所

石村 梨紗（いしむら りさ）  
趣味は登山、カヌーなどのアウトドア、旅、読書、音楽鑑賞。自然は様々な生命の集合体。一時も同じ姿をしていないので、目・耳・心を開いて自然からのメッセージを見逃さないようにしたいです。



#### 支笏湖自然保護官事務所

西川 裕美子（にしかわ ゆみこ）  
自然に関わる仕事をしていると、自然の中で生かされているありがたさを実感します。歩くことが好きでよく山にも登るので、これからも自然の恵みに感謝しながら自然を大切にしていきたいです。



#### 洞爺湖自然保護官事務所

浅田 唯衣（あさだ ゆい）  
多くの子供達と自然にふれあい、大切さを伝えられるよう勉強中！山が大好きで北海道の山をいくつ登ることが出来るか楽しみです。

# 集

## ・レンジャー

### 業務実施の様子



ウチダザリガニの調査作業  
(洞爺湖 加藤)



登山道の整備作業  
(支笏湖 西川)



羅臼湖歩道で自然解説  
(羅臼 石名坂)



#### 洞爺湖自然保護官事務所

加藤 康大(かとう やすひろ)  
スキーを始めて25年、冬になると「道産子で良かった」と思う毎日です。春を迎えたばかりですが、これからもいっそう腕(足?)に磨きをかけ、雪が降るのを待っています。冬山バンザイ。



#### 苫小牧自然保護官事務所

盛田 徹(もりた とおる)  
野鳥との触れ合いが大好きです。バードウォッチングや写真撮影、人災で傷ついた野鳥を救護し、野生復帰させてきました。これからは自然保護全般について努力していければと思っています。



#### ウトロ自然保護官事務所

小長井 崇大(こなが い たかひろ)  
アクティブ・レンジャーに赴任する以前は、哺乳類の基礎的な調査法について学び、山の中でシカ糞などを探し歩いていました。山を歩くこと、野外で読書することが好きです。



#### ウトロ自然保護官事務所

高橋 知里(たかはし ちさと)  
驚きと感動がいっぱいの知床の自然に魅力を感じています。知床を訪れる多くの方々が自然に負担をかけることなく安全かつ快適に楽しんでいただける様に見守っていきたいと思っています。



#### 羅臼自然保護官事務所

石名坂 豪(いしなざか つよし)  
羅臼生活2年目です。今年度は、昨年行けなかった区域へ積極的に巡視に出たいと思っています。休日は注射器と猟銃を使い分け、過密な知床のシカ減らしにもなんとか貢献したいものです。



#### 羅臼自然保護官事務所

佐々木 尚子(ささき なおこ)  
子供のときから自然や動物が好きで、よく海や山に遊びに行っていました。最近は樹洞にすむ動物を探るのが好きで、樹洞を見つけると中をのぞいてみたりしています。



#### 川湯自然保護官事務所

五月女 拓磨(そうとめ たくま)  
出身は東京都国分寺です。特技は中学から始めたバドミントンです。勝負をお待ちしています! 初社会人、初一人暮らし、初北海道と初めてばかりで、現在は初炊火に奮闘しています。美味しいものが食べたい。



#### 阿寒湖自然保護官事務所

福井 絵美(ふくい えみ)  
私は、阿寒の自然が大好きです。特に野生エゾシカを観察することが好きです。冬では、北国ならではのスポーツ、「歩くスキー」で銀世界の森の中を散策することが得意です。



#### 釧路湿原自然保護官事務所

磯野 満里子(いその まりこ)  
山菜からエゾシカまで、食材となりうるものは美味しく料理して頂くのがモットーです。今年の課題はウチダザリガニ活用レシピの充実でしょうか。



#### 釧路湿原自然保護官事務所

森永 太一(もりなが たいち)  
三度の飯よりバスケットが好きで、20数年続けています。バスケットを通じてたくさんの仲間が生まれました。釧路湿原国立公園も今年20周年。さらに多方面とのつながりを広げていけるといいですね。

#### ～アクティブ・レンジャー日記～

北海道地方環境事務所のホームページ (<http://hokkaido.env.go.jp/>) では、国立公園で活動するアクティブ・レンジャーの日記を掲載しています。

# エッセイ

## 思い出の島

帯広畜産大学名誉教授 藤巻 裕蔵



ユルリ島とモユルリ島は根室半島の太平洋側、沖合い約4kmにある二つ並んだ小さな島で、対岸の花咲あたりからみると、お盆を伏せたように平らに見える。モユルリ島は周囲約3km、ユルリ島はその5倍ほどの面積をもち、両島とも高さ約30mである。この二つの島は無人島で、海鳥の繁殖地としてよく知られているが、私にとっては若き日の思い出のある場所の一つである。

私はこれまでに島を5回訪れたことがある。1959年と1960年にモユルリ島へ2回ずつ、1972年にユルリ島とモユルリ島である。

最初のモユルリ島行きでは、島で海鳥の調査をしてみないかと大学の先輩に勧められ、5月中旬に落石から漁船で島に送ってもらった。上陸してテントを張る前に島を一周する。海上にはケイマフリやエトピリカ、崖や急斜面にはオオセグロカモメ、ウミネコ、ウミウ、チシマウガラスがいた。小さな島ではあるが、島に我一人とおもくと、なんとなくよい気分になった。しかし、良かったのはこのあたりまで。前日落石に着いたときには風もなく暖かくてよい天気であったが、島に上陸した日には曇りで、翌日は霧に覆われ、3日目には雨と風の悪天候になってしまった。この日から3日間は暴風雨でまったく動きがとれなかった。風上に向かって体を傾けないと立って



ユルリ島南側にある七ツ岩のウミガラス。ウミウのコロニーの中にウミガラスがかたまっている。(1972年)

られないほどの強風である。島には風を防ぐような地形はなく、身を隠すテントは、博物館から借用してきたまさに「博物館もの」で、風でテントがあおられるたびにテントにしみ込んだ雨がしぶきとなってふりかかってくる。気温は5前後、体が濡れるのはなんとか防いだが、寒くて眠れず、次第に食欲もなくなってくる。なんとも心細い3日間であった。5日目の午後、やっと雨も小降りになり、風もおさまってきた。しばらくして漁船の発動機の音が聞こえてきた。この時間聞いた発動機の音はなんと力強かったことか。漁船に救助され、夕方に花咲港に着いたが、近所ではこの時の時化で事故にあった漁船の乗組員の葬儀が行われてお

り、足が地についていないような気分であった。札幌に帰ってくると、島での出来事は「北大生、消息絶つ、無人島へ海鳥調査に出かけ」と新聞記事になっていた。

その後同じ年の7月、1960年6・7月にモユルリ島の調査にやはり一人で出かけ、1972年には環境庁の特殊鳥類の調査で、私を含め鳥類の調査員3人のほか、植物の専門家とともに訪れた。これら一連の調査で両島の海鳥の生息状況概要を把握できた。エトピリカは最大数で250羽。海上に浮いているだけでこの数であったので、崖の草むらにいる個体を含めるともっと多かったかもしれない。ウミウを約50巣、チシマウガラスを25~35巣を数えることができた。日中にウトウの姿を見ることはできなかったが、巣穴の数は数えきれないほどであった。また、ウミガラスもモユルリ島で18~29羽を数え、ユルリ島の南側にある七ツ岩では40羽近くがいた(写真参照)。北海道では最近エト

ピリカやウミガラスの個体数は非常に少なくなっているが、かつてはまだかなりの個体数で生息していたのである。

私は、1998年、2000年に北方四島ビザなし交流の専門家交流訪問団の鳥類調査団の一員として国後島、択捉島、色丹島を訪れたことがある。国後島太平洋側の海上や色丹島南側では多数のエトピリカを見ることができた。私は崖上を旋回飛翔したり、海上に浮いているエトピリカを

見て、かつてのモユルリ島を思い出した。ユルリ・モユルリ両島からわずか100kmほど離れただけで、このような違いがある。いったいこの違いの理由はなんなのであろうか。

ユルリ・モユルリ両島での海鳥調査は特別なことではなく、船を使うことを除けば河川沿いや森林で普通に鳥類を調査をするのと同じである。しかし、1959・60年の調査の結果は学術誌に掲載され、私にとっての最初の論文となった。30~50年前のユルリ・モユルリ両島の鳥類の生息状況を記録できたことは、最初のモユルリ島での出来事とともに、思い出の一つになっている。



## 伝えること

稚内自然保護官事務所 自然保護官 小関 ますみ

稚内の地に降り立ってから約2ヶ月、自然の大きさと繊細さに驚かされる日々が続いています。この自然を守るためには、多くの方々の協力が必要なのは言うまでもありません。そのために、私たちから伝えたいことがたくさんあることに気づきました。

例えば利尻山の登山道。山頂付近の荒廃が著しく、整備が求められている登山道です。環境省では、平成17年度より、登山道整備に向けた調査、検討を始めるとともに、地域や関係行政機関と協力して登山道の維持管理を行っています。

登山道が荒廃した原因は、登山そのものにもあります。利尻登山は、日本百名山のひとつとして人気が高く、利尻礼文サロベツ国立公園の魅力ある楽しみ方のひとつです。また、地域にとっても大切な観光資源です。ですから、これからも登山道を残していくために、登山道に優しい登山をしてもらうことが重要なのです。



山頂付近の登山道崩壊

登山道に優しい登山とはどんな登山なのでしょう。利尻山の場合は「利尻ルール」として、「携帯トイレを使う

こと」、「ストックにキャップをつけること」、「植物の上に座らない、踏み込まない」の3つのルールを呼びかけています。登山者にこれらのマナーを守っていただければ、登山道への影響が軽減されると考えています。

平成18年度から、利尻島専属のアクティブ・レンジャーが配置され、これらのマナーを登山者に伝える活動にも力を入れています。ポイントは、マナーの必要性を



6月の利尻山

効果的にわかりやすく伝えることです。現在はホームページの充実、登山口やフェリーターミナル観光案内所付近でのポスターの掲示などを行っています。また、登山者の多くは利尻島内で前日泊をすることから、宿泊業者との連携も始まりつつあります。

登山者への働きかけは、まだまだ発展途上です。利尻山と登山者のより良い関係づくりのために、地域と連携しながら、伝える取組を充実させていきたいと考えています。

## 二十歳を迎える釧路湿原国立公園

釧路湿原自然保護官事務所 自然保護官 露木 歩美

ある朝、いつもどおりに職場に着いて車を降りるとアオジのさえずりが耳に飛び込んできました。昨日まで、冷えた空気の中に時折タンチョウやオオハクチョウの声が響く静かな朝が繰り返されていたのに、突然の春の到来を実感しました。

ここは、釧路湿原の南西の縁に建つ釧路湿原野生生物保護センター。釧路湿原や野生生物の保護管理に関する普及啓発と研究のための施設です。敷地内には大きなケージがあり、国内希少種に指定されているシマフクロウ、オオワシ、オジロワシ等の保護と野生復帰に向けたリハビリ等を行っています。また、センター内には釧路湿原自然保護官事務所が入っており、釧路湿原国立公園の保護と利用に関する業務を行っています。



コックロ展望台から眺望

釧路湿原は日本で最も大きな湿原といわれ、湿原、河川、湖沼、周辺の森林等、多様な環境が形成される中、特別天然記念物に指定されているタンチョウ、氷河期からの残存種といわれるキタサンショウウオなど、特有の

野生生物が生息する環境です。

この価値が世界的に認められ、日本で最初のラムサール条約登録湿地となったのは1980年。国内でも、他に類を見ない広大な景観と湿原の多面的な価値が評価され、1987年7月31日、日本で28番目の国立公園に指定されました。

一方、釧路川流域や湿原周辺の人々の営みによる影響を受け変化してきた釧路湿原を、人為的な影響により変化する前の状態に戻そうとする取組が始まっています。釧路湿原自然再生事業です。構成員が123名（平成18年12月25日）という協議会の中で検討しながら進めていく「釧路方式」の取組は、自然再生事業の試金石だと感じています。

釧路湿原国立公園は、今年、指定20周年を迎えます。まだ若い国立公園ですが、貴重な自然環境の保全とそこで繰り広げられる人の活動を発信する中で、国立公園の新たな役割を創出していくのだろうと感じています。



自然再生地の様子  
(釧路川茅沼地域)

# 事|業|紹|介 タンチョウを日本の財産に！

NPO法人 タンチョウ保護研究グループ

理事長 百瀬 邦和

## ○タンチョウとは？

日本の国鳥は桃太郎でおなじみのキジなのですが、1947年に国鳥を選ぶ際、最後まで争ったのがタンチョウだったそうです。知名度、人気等では優勢だったタンチョウが選ばれなかったのは、タンチョウが見られるのは北海道の、それも道東地方に限られていて、全国区ではないというのが理由だったとか。今、タンチョウは北海道の鳥（道鳥）に指定されています。

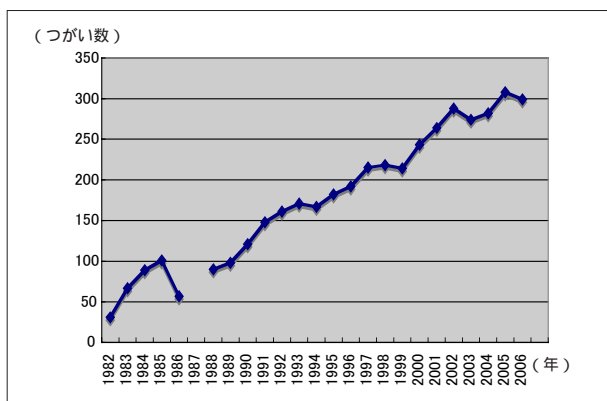
ところで、ツルといえばカメと共に長寿のシンボルですが、実際のところタンチョウの寿命はどのくらいなのでしょう？実はこんな基本的なこともまだ判っていないのです。さらに、毎年孵ったヒナは何時、何処でつがいになるのか、そして何処に行くのか？また、何時、何処で何をどのくらい食べているのか？などなど…。

しかし、タンチョウは、日本で記録されている500種あまりの鳥の中で、総数と繁殖数がかなり正確に判っている数少ない鳥のひとつでもあります。私たちは、このタンチョウにこだわった活動を行なっている団体です。

## ○タンチョウ保護研究グループ

グループの前身であるタンチョウ保護調査連合は、1983年にタンチョウの生態調査をするグループとして約10名で結成されました。主な活動としては、毎年4月から6月にかけて、ヘリコプターやセスナ機を使って巣や家族、若鳥などの分布や数、さらにその環境などを調べています。

タンチョウのヒナが大きくなってくる6月後半から8月初旬は標識調査のシーズンです。この調査は、環境省の保護増殖事業の一環として、当グループが山階鳥類研究所から引き継いで行っています。1羽1羽のツルが区別できることによって、生き残るヒナの割合、寿命、移動の様子などタンチョウについてのいろいろなことが判ってきます。



タンチョウ保護調査連合の調査によるタンチョウの繁殖つがい数



農家の庭先でトラックに写った自分を攻撃するタンチョウ

また、タンチョウが最も給餌場集まる厳冬期を選んで、早朝から日没まで飛来する総数と幼鳥を数え、それを基に毎年の正確な生息数を調べています。この調査には毎年多くの方がボランティアで参加され、今年は延べ120人が氷点下の雪の中で終日ツルを数えました。これら調査の結果は、調査の際の説明会や講演会など、また今年度から発行する会誌やホームページ上でも発表していきます。

## ○タンチョウは今

野生のタンチョウは、世界で2500 - 3000羽にすぎませんが、その半数近くが北海道にいます。北海道のタンチョウは、絶滅寸前の状態から冬の給餌など人との強い関わりの中で、1200羽を越えるまでに増えてきましたが、今ではタンチョウの生活する場所が人家の周辺に広がって、農作物への被害や、繁殖期でも餌を給餌や牛の配合飼料などに頼る現象がおこっています。

タンチョウが数を増してきた今こそ、私たちがこの大型で魅力的な野生の鳥を、地域の財産として守っていく、新しい取り組みを進めたいと考えています。地元の人皆がタンチョウのことを良く知り、よく知ったうえで愛着をもつことができれば、タンチョウという鳥だけでなくそれをとりまく地域そのものが世界に誇れる財産になるでしょう。

タンチョウ保護研究グループは、こうした活動の一部を担いたいと、今年4月にNPO法人としてスタートしました。

◇問合せ先 〒085-0036 釧路市若竹町10番2号  
NPO法人 タンチョウ保護研究グループ  
TEL・FAX : (0154) 22-1993

7月～9月の

# EVENT Information

現時点では、日程が未確定なものや、日時・場所が変更される場合がありますので、それぞれの連絡先に直接お問い合わせください。  
印は、自然公園法50周年行事

## 環境対策課から

☎011-251-8702

7月25日(水)地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン地方説明会  
実施場所: 釧路合同庁舎 5F 共用第1会議室(釧路市)  
7月26日(木)地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン地方説明会  
実施場所: 佐藤水産文化ホール(札幌市)  
7月27日(金)地球温暖化対策地域推進計画策定ガイドライン地方説明会  
実施場所: 道北経済センター 2F 中ホール(旭川市)  
8月3～5日(金～日)我が家の環境大臣イベント(環境広場さっぽろ2007内)  
実施場所: アクセスサッポロ(札幌市)  
8月6～8日(月～水)体験から学ぶ地域の環境(環境教育リーダー研修基礎講座)  
実施場所: 国立大雪青少年交流の家(美瑛町)  
8月18日(土)いるんな川へ、ちきゅう遊び  
実施場所: 琴似発寒川ほか(札幌市)  
9月23日(日)ESD(持続可能な開発のための教育)フォーラム  
実施場所: 未定(当別町)

## EPO北海道から

☎011-707-7060

8月3日(金)CSRセミナー「COOLに環境CSR～シロクマさんとのパートナーシップ」(環境広場さっぽろ2007ビジネスセミナー内)  
実施場所: アクセスサッポロ(札幌市)  
8月24日(金)CSRスタディツアー～株式会社アレフの環境配慮施設見学会～  
実施場所: えこりん村(恵庭市)  
8月25日(土)地球温暖化防止をめざす環境学習セミナー「新エネルギーセミナー・視察 in 伊達」  
実施場所: 伊達市カルチャーセンター(伊達市)ほか

## 稚内自然保護官事務所から

☎0162-33-1100

7月8日(日)プチ自然観察会  
実施場所: サロベツ原生花園自然教室(豊富ビジターセンター)  
7月20日(金)ナイトハイキング 実施場所: パンケ沼園地  
9月下旬 野鳥観察会 実施場所: 幌延町下沼地区

## 上川自然保護官事務所から

☎01658-2-2574

8月5日(日)自然観察会 実施場所: 三国山  
9月15日(土)自然観察会 実施場所: 赤岳・コマクサ平

## 東川自然保護官事務所から

☎0166-82-2527

7月22日(日)野外観察会 実施場所: 愛山溪温泉  
8月26日(日)野外観察会 実施場所: 忠別川及び旭岳温泉周辺

## 上土幌自然保護官事務所から

☎01564-2-3337

7月21日(土)然別湖自然観察会 実施場所: 白雲山・天望山  
9月24日(月)秋の自然観察会 実施場所: 新得町  
連絡先: 新得町役場商工観光課(☎01566-4-0525)

## 支笏湖自然保護官事務所から

☎0123-25-2350

7月8日(日)滝巡り&自然観察 実施場所: 美笛の滝・白扇の滝など  
7月29日(日)夏休み親子観察会 実施場所: 支笏湖周辺  
8月5日(日)自然公園クリーンデー  
実施場所: 支笏湖畔、モラップ、美笛、ポロピナイ、オコタン周辺  
8月18日(土)自然観察会 実施場所: 支笏湖畔  
9月上旬 滝巡り&自然観察 実施場所: 美笛の滝・白扇の滝など  
9月30日(日)自然歩道歩こう会 実施場所: 支笏湖畔～紋別岳

## 洞爺湖自然保護官事務所から

☎0142-76-4877

6月30日(土)～7月1日(日)子どもパークレンジャー  
「夏だ! キャンプだ! ザリガニだ!」  
実施場所: 洞爺財田自然体験ハウス・洞爺湖周辺  
連絡先・申込み: NPO法人当別エコロジカルコミュニティー  
(☎0133-22-4305)

## 川湯自然保護官事務所から

☎015-483-2335

8月25日(土)子どもパークレンジャー  
「屈斜路湖外来生物バスターズ!」  
実施場所: 川湯エコミュージアムセンター、和琴半島周辺  
連絡先・申込み: 子どもパークレンジャー北海道事務局  
(川湯エコミュージアムセンター内 ☎015-483-4100)

## 釧路湿原保護官事務所から

☎0154-56-2345

8月5日(日)釧路湿原国立公園指定20周年 記念事業  
「ワンダーランド・ナチュラ」  
実施場所: 釧路市国際交流センター  
9月23日(日)釧路湿原国立公園指定20周年 はたち祭り  
実施場所: 釧路湿原周辺各自然観察施設等

## ウトナイ湖野生鳥獣保護センターから

☎0144-58-2231

7月1日(日)ウトナイこども探検クラブ「初夏」  
実施場所: ウトナイ湖周辺  
7月8日(日)無料講座 傷病鳥獣救護ボランティア養成講座  
実施場所: ウトナイ湖野生鳥獣保護センター  
8月5日(日)ウトナイこども探検クラブ「夏」  
9月2日(日)ウトナイこども探検クラブ「初秋」  
実施場所: ウトナイ湖周辺

## 宮島沼水鳥・湿地センターから

☎0126-66-5066

7月22日(日)とってさわって観察会 実施場所: 宮島沼周辺  
8月12日(日)虫・むし・ムシとり遊び 実施場所: 宮島沼周辺

## 支笏湖ビジターセンターから

☎0123-25-2453

7月1日(日)七条の滝ハイイク  
7月15日(日)第一発電所ハイイク  
7月22日(日)紋別岳ハイキング  
8月17・18日(金・土)野鳥の森に咲くヤマジノホトトギスを見に行こう  
8月19日(日)第一発電所ハイイク  
8月26日(日)紋別岳ハイキング  
9月16日(日)第一発電所ハイイク  
9月23日(日)紋別岳ハイキング

## 洞爺財田自然体験ハウスから

☎0142-82-5999

7月21日(土)池の生き物調べ  
8月11日(土)～15日(水)そば打ち・うどん打ち体験  
実施場所: 洞爺財田自然体験ハウス

## 層雲峡ビジターセンターから

☎01658-9-4400

6月30日(土)～8月12日(日)山の花写真展  
7月8日(日)山開き縦走登山「黒岳～お鉢平一周」  
8月13日(月)～9月24日(月)大雪山の紅葉写真展  
9月9日(日)武華岳観望登山

## 温根内ビジターセンターから

☎0154-65-2323

7月8日(日)初夏の湿原花ハイイク  
7月18日(水)～22日(日)ホタルウィーク  
7月29日(日)トンボ&ザリガニウオッチング  
8月5日(日)夏の湿原花ハイイク  
9月9日(日)初秋の湿原花ハイイク 実施場所: 温根内ビジターセンター周辺

## 塘路湖エコミュージアムセンターから

☎015-487-3003

7月21日(土)縄文土器・土鈴作り  
9月8日(土)針穴写真機を作って撮影会 実施場所: 塘路湖エコミュージアムセンター  
8月12日(日)サルボサマーハイキング 実施場所: サルボ展望台周辺

## 川湯エコミュージアムセンターから

☎015-483-4100

7月8日(日)摩周岳登山 実施場所: 摩周第一園地～摩周岳  
9月16日(日)辺計礼(ペケレ)山登山 実施場所: 辺計礼山

## 阿寒湖エコミュージアムセンターから

☎0154-67-4100

7月8日(日)ペンクレー・パンクレー自然探勝会  
実施場所: ペンクレー・パンクレー  
7月22日(日)オンネトー自然観察ハイキング  
実施場所: オンネトー  
8月5日(日)クリーンデーキャンペーン  
実施場所: 雌阿寒岳、阿寒湖畔のポケ遊歩道等  
8月11・12日(土・日)夏休み企画「夏休みこども工作教室」  
実施場所: 阿寒湖畔エコミュージアムセンター  
9月9日(日)アウトドアクッキング体験会  
実施場所: 阿寒湖畔キャンプ場

## ★「みどりフェスタ&国立公園フェア」

4月28日(土)に東京都新宿区の新宿御苑で、自然公園法50周年記念行事「みどりフェスタ&国立公園フェア」が開催されました。北海道からは、利尻礼文サロベツ

国立公園連絡協議会、釧路湿原国立公園連絡協議会、洞爺湖洞、国立公園支笏湖運営協議会の4団体が参加し、それぞれのブースで、国立公園の紹介をはじめ、クラフト体験、特産物の販売などを行い、国立公園をPRしました。

当日は、夕方からの激しい雷雨のために途中で中止となりましたが、会場は多くの来場者で賑わいました。フェアをきっかけとして、多くの方々が国立公園を訪れ、魅力を体感していただけることを願っています。



稚内自然保護官 小関 ますみ

# 北のいきもの事典

## キタサンショウウオ

環境省レッドデータブック  
準絶滅危惧種 (NT)  
北海道レッドデータブック  
絶滅危惧種 (En)  
天然記念物 (釧路市 標茶町)



キタサンショウウオ  
昨年秋に別の調査地点で捕獲されたもの。計測等が終了後は、捕獲場所へ戻される。



青白く光るキタサンショウウオの卵塊

水辺に緑が芽吹き出す頃、釧路湿原ではキタサンショウウオの産卵が始まります。5月上旬、その卵塊を観察する機会に恵まれました。不思議なことに産卵直後の卵塊は、青白い蛍光色に光るのです！その神秘的な光は、湿原に息づく小さな命の輝きを代弁するかのようでした。

キタサンショウウオはシベリアから千島列島を含む北アジアにかけて広く分布していますが、日本では釧路湿原にしか生息が確認されていません。体長は11cm程度で、前肢、後肢とも指が4本（一般的に有尾両生類は後肢の指が5本）という特徴があります。

釧路湿原ではスゲ類の根元が隆起してできるヤチボウズを隠れ家や越冬に利用するとされ、産卵にもヤチボウズ群落内の水たまりなどを利用しています。この暮らしぶりからは湿地と切り離せない生き物との印象を受けますが、国外では森林など湿潤な場所以外にも生息しているのです。

何故、北海道のキタサンショウウオは、釧路湿原にしかない

のでしょうか？この理由は、釧路湿原を特徴づける他の北方系の生き物と同様に「氷河期の遺存種」（氷河期に分布を広げ、氷河期が終わった後も気候が冷涼なままであった釧路湿原に生き残った種）と説明されています。

また、エゾサンショウウオ（北海道の固有種で道内に広く分布）との生存競争に負けた結果、釧路湿原での生活を余儀なくされたとも推察されており、これは釧路湿原周辺で両種が湿原と森林の境界付近で生息域を分けていることからも頷けます。しかし、それでもなお同様の条件を備えた他の湿地では見られない点など、分布の妙には謎がつきません。

キタサンショウウオの生息地は、人の営みの影響で破壊・分断され減少しています。

卵塊を観察したのは釧路湿原自然再生事業の一環として、生息地の保全が検討されているエリア。ここでは専門家が湿原に落とし穴式のトラップを仕掛け、捕獲調査も行っています。残念ながら今回5日間の調査での捕獲はゼロでしたが、今後も季節を変えて実施し、この地点での生態を探るそうです。

湿原という人が通常分け入ることがない環境にひっそり暮らすキタサンショウウオに出会う機会はまず皆無。それだけに、卵塊や捕獲調査から得られる情報は、保護策を講じるためのみならず、私達はその息遣いを感じられるメッセージとしても貴重なものです。

姿を見ることはできなくても、その生き物の意外な側面や不思議さを知ること、その物の魅力、その生息するフィールドの魅力が立体化される瞬間があります。



捕獲罠  
(ビットフォールトラップ)  
調査期間中は毎日見回り作業が行われる。

釧路湿原自然保護官事務所  
自然保護官補佐 磯野 満里子

## 人事異動

( )は旧職名

7月1日付

北海道地方環境事務所へ

環境対策課課長補佐(廃棄物・リサイクル対策担当)

水原 健介(水・大気環境局総務課環境管理技術室排出ガス係長)

釧路自然環境事務所へ

ウトロ自然保護官事務所首席自然保護官

高橋 啓介(自然環境局自然環境計画課サンゴ礁保全専門官)

北海道地方環境事務所から転出

水・大気環境局大気環境課課長補佐

伊藤 隆晃(環境対策課課長補佐)

釧路自然環境事務所から転出

自然環境局自然環境計画課課長補佐

河野 通治(ウトロ自然保護官事務所首席自然保護官)

7月10日付

釧路自然環境事務所へ

北海道地方環境事務所保全統括官(釧路自然環境事務所長)

北沢 克巳(総合環境政策局環境経済課環境教育推進室長)

釧路自然環境事務所から転出

林野庁森林整備部研究・保全課長

渋谷 晃太郎(釧路自然環境事務所長)

## 編集後記

北海道にも本格的な夏の到来です。環境関係や国立公園などでは多くのイベントが企画されています。家族や友達と一緒に出かけよう！（イベント情報は11頁に掲載されています。）

また、来年度開催される「北海道洞爺湖サミット」に向けて、これから約1年間、準備活動が本格化します。北海道全体で盛り上げ、魅力ある盛大なサミットとしましょう！

発行：環境省

北海道地方環境事務所

〒060-0001 札幌市中央区北1条西10丁目1番地 ユーネットビル9階

TEL(011)251-8700・FAX(011)219-7072

http://hokkaido.env.go.jp/

釧路自然環境事務所

〒085-8639 釧路市幸町10丁目3番地 釧路地方合同庁舎4階

TEL(0154)32-7500・FAX(0154)32-7575

http://hokkaido.env.go.jp/kushiro/